

夏合宿報告書

NO. 2

1969

東京電機大学ワンダーフォーゲル部

C パーティ

(メンバー)

P. L	梶野 篤	3 C	
S. L	村川 茂	3 M	
医 務	白石 哲夫	3 P	久保田 明 1 C
写 真	今村 隆一	4 P	田村 盛一 1 C
食料・会計	千野 聖純	2 C	宮原 正博 1 C
装備・気象	千代倉 守成	2 P	松本 容治 1 M
記 録			

○ コース予定表

- 7/23 上野 ~~山形~~
- 7/24 ~~山形~~ 山形 ~~左沢~~ 左沢 バス 柳川-----田沢 (T. S)
- 7/25 田沢-----古寺-----古寺鉦泉 (T. S)
- 7/26 古寺鉦泉-----花ノ木峰-----小朝日岳-----大朝日岳
(金玉水) (T. S)
- 7/27 朝日岳-----竜門山-----北寒江岳-----善六ノ池 (T. S)
- 7/28 停滞日
- 7/29 善六ノ池-----相模山-----大上戸山-----三面小屋
(T. S)
- 7/30 三面小屋-----三面 (T. S)
- 7/31 三面-----三面ダム舟付場 ~~フネ~~ 三面ダム-----布部
(T. S)
- 8/1 停滞日
- 8/2 布部-----岩沢-----上野-----柏尾 (T. S)
- 8/3 柏尾-----瀬波-----瀬波キャンプ場 (T. S)
- 8/4 瀬波キャンプ場-----岩船-----福田-----桃崎沢
(集結)

8/5

8/6

8/7

○ 行動記

7 月 2

上野 ~~山形~~

OB. 4

7 月 2

~~山形~~ 米

沢口でバ

で、皆なは

ったが、地

2:30に

後、TSと

ラつく。

7 月 2

TS ~~2:00~~

4時起床。

草木快養培

谷の崖を通

面影を残し

えてきた。チ

テ気味の者

TSは、鉦

午後からは、

8/5 予 備 日

8/6 予 備 日

8/7 解 散

○ 行動記録

7 月 23 日

上野 田代
20:50 発

OB、4年生らの壮大な見送りを受け、全員元気で出発。

7 月 24 日

田代 米沢 田代 山形 田代 左沢 田代 沢口 —— 柳川 —— TS

沢口でバスを下りて歩き始める。最も暑い時刻であり、荷物も重いので、皆なはなかなか調子が出ない。予定としては、田沢で泊るはずであったが、地元の入のアドバイスにより、沢沿いにTSを探しながら歩く。2:30に道のわきに幕場に良い場所を見つけたので、水場を偵察した後、TSと決定する。4:00頃、雷雨の影響であろうか、少し雨がパラつく。

7 月 25 日

TS 田代 古寺 田代 古寺鉾泉
2:00 50

4時起床。昭和40年に廃止された森林軌道の跡を道が続く。

草木快養増を右に見るあたりから谷はしだいに細くなり、切り立った溪谷の崖を通るようになる。道は所々崩れて通りにくく、さびれた廃道の面影を残している。古寺に出ると急に視界が開け、前方に朝日ヶ山が見えてきた。天気は良く、急に陽が射して暑くなってきたので、早くもバテ気味の者が現われる。9時5分、古寺鉾泉に着き、すぐ昼食をとる。TSは、鉾泉から少し下った道の脇にあり、非常に気持のよい所である。午後からは、全員でフキをとり、つくだ蒸を作ったが、なかなかよい味

であった。

7月 26 日

TS $\frac{1:40}{}$ 花ノ木峰 $\frac{1:55}{}$ 小朝日 $\frac{1:25}{}$ 大朝日 (金玉水)

3時起床。良い天気であった。今日は最初から登りっぱなしの最も苦しい行程である。スピツ今日から早くも遅れ出す者があり、やむを得ずパーティを二分する。急な登りではあるが、道幅は広く途中水場もあり、よく整備された登山道である。

古寺山まで上ると、早くも森林限界を過ぎ、高山的な美しさを程してくる。大朝日の頂上付近には厚い雲がかかり、天気がくずれてきたようである。パーティの調子も思わしくないので、小朝日の頂上をきわめるのはあきらめて、巻き道を通る事にする。

小朝日を巻いた所で昼食を取った後、一年生の一人が足をつった。どうも足がつり出すとくせになるようで、彼はこの日、3回もつってしまい、そのたびに食塩をザックの本体から出し入れしたので、かなり無駄な時間を使ってしまった。

後の反省会でその問題になったが、登りがきびしい日はザックのサイドに食塩を入れるなり、食塩水をあらかじめ少量作っておく位の心構えは、当然必要な事であると反省した。11時5分、大朝日小屋に着く。

ガスがかかり、視界はよくない。金玉水のテントサイトは、小屋から5分程下った所であり、金玉水はV字型の大きな雪渓から流れ落ちている。あたりは高山植物の大群落で、斜面に沿って整地されたテントサイトには、4、5パーティが幕営していた。

7月 27 日

停滞。

夜半過ぎから風が次第に強くなり、3時頃からは雨も断続的に強く降り出す。

3時45分起床。あたりは全く視界がきかず、脈打つ様な吹き方で風は強

まってい

5時30分

8テント

く無駄で

し、また

朝食後

けると、

なり、風

イも現わ

停滞をす

3時半

明日の行

程になる

7月

停滞。

真夜中、

くなって

な模様。

た。全く

「ボキリ

8テント

うにして

避難小屋

からって

まわなし

が、不意

撤収を施

には2ハ

まっで行く。

5時30分より短波放送の気象をとっているが、突然、突風が吹きつけ、8テントの架のポールが折れてしまった。とっさにポールを押えたが全く無駄であった。短波の気象通報の結果、この日は天候回復が望めないし、また線歩きである為、風をして、今日は停滞とする。

朝食後、ポールの修理にとりかかる。ペグをあてがい、針金でまきつけると、どうにか使用可能な状態になった。9時過ぎから雨も小降りになり、風もいづらかおさまってきた。ぼちぼち出発の準備をするパーティも現われる。弧穴小屋まで行くという大阪工大のパーティに、今日は停滞をする旨をB隊に伝えてもらうようにたのむ。

3時半頃、B隊到着。B隊が前日、善六池附近を偵察してくれたので、明日の行動のよい参考となる。日中、いづらか安定した天気が続いたが、夜になると再び風雨共に強くなる。

7月28日

停滞。

真夜中、暴風雨が吹きまくる。4時起床。明け方になり風雨が更に強くなってきたので、ポールはおさえたままである。今日も行動は不可能な模様。6時頃、又突風が吹きつけ、8テントのポールを折ってしまった。全くいまいましい風である。

「ポキリ」と気持よいほど見事な音がした。やむを得ず朝食を取った後、8テントをつぶす。2年をB隊のテントに移し、6テントに折重なるようにしてしばらく過ごす。こうなってしまうとは、もはや残された道は避難小屋に行く以外はない。9時過ぎ、風雨が少しおさまったのを見はからって撤退を始める。テントはそのままの位置でつぶし、ぬれてもかまわない物以外をすべてザックにつめ込んだ。風は依然として強かったが、不思議と雨だけはやんでくれたので、撤収作業は以外とはかどった。撤収を始めてから30分後、我々は避難小屋に到着した。幸にも小屋の中には2パーティが入っていただけで、我々にも十分なスペースがあった。

ノ時調ゴレにB隊とランシーバーで連絡をとることになっていたが、どうもうまくいかない。昼食をとった後、午後2時過ぎ、再び風雨がおさまるのを見て、残してあるテント、その他の物を回収しに行く。幸いに、この時も雨だけは小降りのままであった。

B隊の撤収を考えてみたが、小屋は我々が入った事で、ほぼ満員である。B隊は今晚もがん張る事になった。夜になり、雨は一段と強くなってきた様である。B隊の連中のことが気にかかる。消灯8時。雨もりがし、壁をしみて水が流れる様なひどい小屋であったが、ポンチョなどをかぶるに任せて、どうにか気持ちよく寝る事が出来た。

7月29日

4時起床。風雨以前として収まらず、短波の気象によると、前線はいっこうに上る様子がない。ようやく明るくなってきた5時半頃、B隊が全身ずぶぬれで飛び込んできた。昨夜は一睡もしていない様子である。さっそく換えの衣類をB隊に貸し与える。

8時45分、風雨が多少収まりかけたので、出発の指令を出す。

今日中に、孤穴小屋まで行動しなければ、食糧の事を考えても、大膽にコースの変更を断念しなければならないと考えた上での判断であったが、9時15分の気象をとった結果と、B隊の回収作業の時の天候を知らされて断念する。しかしながら、小屋の附近での天候の判断だけによって、そのような決定をしたのは、全く無暴であり、リーダーとしての常識を欠きみはした判断として、深くお詫言をしなければならない。

7月30日

この日はB隊と共に朝日鉾泉へ下ったわけだが、これより朝日鉾泉でB隊と別れるまでの行動は、B、C混合パーティとなり、B隊の記録と重複するので、はぶくことにする。

7月

朝日

前夜

だ。9

雨は相

く沢を

で呆然

11時50

にもど

木まで

雨は

疲労が

の行列

頃から

無理も

今日

出来な

には、

リ、ち

夕方

下です

明日

8月

停滞

久々

つさ

者、ゴ

ろんだ

7月 31 日

朝日鉦泉 ^{3:30} 立木

前夜の疲れが出た力であろう。皆安心しきって、ぐっすり眠ったようだ。9時に起床し、クッキーと玉子パンの朝食をとる。

雨は相変わらず降り続き、沢の水量は一向に減る様子がない。轟々と渦巻く沢を見落しながら、昨夜のしさを思い返しているのだろう。皆無口で呆然としている。

11時50分、B隊出発。12時23分C隊出発。この日より再び隊をもと通りにもどす。B隊はバスに乗るために一足先きに出発。今日の行程は、立木までおよそ16Km。朝日鉦泉のダムを過ぎると、すぐ林道になる。

雨は依然として降り続き、道は所々土砂崩れで埋っている。疲労が蓄積しているわけであろう。皆、殆んど口を開こうとしない。若い行列の様である。夕時20分、立木小学校着。立木へ着くノピッチ前頃から、2年生が一人遅れ始める。朝食に玉子パンを食べただけである。無理もない事だろう。

今日は立木小学校に泊まらねばならない。勿論、テントを立てる事も出来ない。それに、何から何まで全てずぶぬれである。立木小の体育館には、大阪工大のワングル、日大郡山のワングルもすでに泊り込んでおり、ちょっとしたにぎわいを見せていた。

夕方になり、雨も上って青空が所々顔を出してきた。何としても陽の下ですべての物を乾かし、一日ゆっくり体を休めなければならない。

明日は停滞することに決める。

8月 1 日

停滞。

久々に太陽を拝んだ。陽の光が何とも言えずありがたかった。皆、いつかの物を屋外に出して乾した。今日一日は自由行動にし、散歩する者、ゴロゴロしている者、さまざまであった。開放感のせいか、皆まどろんだ目をして、無気力な顔をしているが、食欲だけは旺盛である。

夕食後、校長先生に山形の代表的な民謡である花今音頭を習う。

8月 2 日

立木 7:45 宮宿 8:15 9:40 荒砥 10:25 11:17 今泉 12:08 12:15 坂町 14:26 村上 14:45 15:55

布部
16:32

起床5時。今日はすべて交通機関である。距離的にもかなりあるが、乗えが多く、ローカル線なので待ち合わせに使う時間ははなはだし。7時15分に立木を出発し、布部に着いたのは午後4時半だった。

布部に着き、公民館を手配するがことわられる。しかたなく、中新保にある朝日中学に交渉し、体育館に泊めてもらう。

合宿中にまる一日、交通機関を使ったのは初めてのことでないだろうか。それに、これからは全くロードである。残りの3日間が完全に惰性的なムードになってしまうのではないかと懸念する。ミーティング後、Cに手紙を書く。学校の体育館、OBへの手紙、明日からの長いロード。ようやく夏合宿らしい気分になってきたとも言える。山の中の古い経験のせいか、一時口数が少なかった一年生も、そのあたりから元の調子にもどり始めた。

8月 3 日

布部 7:15 猿沢 3:00 柏尾

起床4時。すがすがしい朝である。朝日の中を歩き始めるのは初めてであろう。6時45分出発。朝もやをついて道は一直線にのびている。気持ちのよいロード歩きが始まった。猿沢からは300mたらずの峠越えである。間合わせによると、ふみ跡は付いているが、やぶにおおわれているとの争である。地元の人に聞いてみたが、猿が出るほかは、心配なさそうである。思ったほど勾配は急ではなく、道はやぶでおおわれているが、踏み跡ははっきりしているので迷うような事はない。どこが峠のピークだかわからぬ森な場所であるが、道が見えてくる頃から下り坂になり、やぶも少なくなってくる。道が川と交錯した所で昼食

をとる。柏

11時30分、

明日から毎

ロゴロして

夕方、0

てなごやが

8月 4

柏尾 12:5

今日の行

撤収を行な

非常時のた

時間がかか

非常事態は

でも、就寝

パツキング

下級生に

している。

たなく歩き

頃からあた

まだ朝食を

く先頭につ

岩ヶ崎の

る。すばら

なのであま

た一年生の

てて足を運

しすりむい

後、すぐ歩

をとる。柏尾まではゆるやかな、幅のない道となり、快調に歩を進める。
11時30分、柏尾着。川を渡った、町とは反対側の浜にテントを張る。
明日から毎日海だと思えば、あまり泳ぐ気もしないのだろうか、泳でゴ
ロゴロしている者が多かった。

夕方、OBの小林さん、奥沢さんが車で到着。差し入れなどして頂い
てなごやかな晩を過ごす。

8月 4 日

柏尾 $\xrightarrow{1:50}$ 瀬波 $\xrightarrow{20K}$ 瀬波キャンプ場

今日の行動は短いので、前もって予定していた通り、早朝、テントの
撤収を行なう。2時55分起床。3時30分出発。

非常時のための訓練と、気分転換のために行なったのだが、あまりにも
時間がかかりすぎた。不断からの心構えが不足しているからであろうが、
非常事態は山中でなくとも常に考えられるのであるから、いかなる場合
でも、就寝前の準備を怠ってはならない。また下級生は、いかに自分の
パッキングが不手際であったかを、反省させられるだろう。

下級生には全く予告なしの撤収であったので、皆キョトンとした顔を
している。それでも文句を言う者もなく、半分眠った様な目をしてしか
たなく歩き始めた。最初は遅いペースであったが、最初の休みを終えた
頃からあたりが白み始めると、がぜん早いペースとなった。

まだ朝食をとっていないのであるが、行程が短いのを意識してか、皆よ
く先頭についてゆく。

岩ヶ崎の海岸を大きく回るあたりから、瀬波の温泉が眼下に見えてく
る。すばらしい展望である。道はそこから下り坂になる。未舗装の道路
なのであまり歩きやすいとは言えない。突然、トップの後を歩いてい
た一年生の一人が転倒したらしい。少しトップから遅れていた為、あわ
てて足を運んだので、つまづいたのだろう。額と手首を打ち、手首を少
しすりむいた様だが、たいした事はない様なので、消毒して薬をつけた
後、すぐ歩き始める。

瀬波の町中を通り、海岸道路をしばらく歩くと間もなく、瀬波のキャンプ場である。キャンプ場に着いたのは、午前6時であった。

朝日を食べた後、今日はほとんど自由時間である。昼頃になると、キャンプ場はかなりにぎわってきた。

今日は、合宿に入ってから一番暑い様である。日射しが強い。午後、夕立ちがあった。風も相当に強くなってきた。

雨が上った後、夜空は満天の星になった。ミーティングを終えた後、外に出て、皆で歌を歌ったが、合宿が終りに近づいたせいか、今日体を焼きすぎてだるいせいか、なかなか調子がのってこない。そう言えば、今日の夕食は最底の出来であった。めずらしくひどいガントである。昨日こられたOBの方も一緒に夕食であったが、昔を思い出して苦笑いした事であろう。

8月 5 日

瀬波キャンプ場 $\xrightarrow{1:10}$ 岩船 $\xrightarrow{1:30}$ 桃崎浜（集結地）

5時30分起床。今日のコースもたいしたことはない。昨日の電話の打ち合わせで、昼までには集結する事になっていたのも、やむなく7時に出発した。台風の影響で天気がくずれて来たせいか、雲が多く涼しいので、歩くのは楽である。荒川の世橋を渡った土手の土で、集結地を目前にひかえて最後の休憩を取る。

いろいろハプニングの多い合宿であったが、やはり皆に迎えられて集結したい。二年を二人、昼食のパンを買いに行くかたわら集結地の偵察に出す。1時間ほどして偵察が帰ってきた。まだ、どの隊も集結していないとの事、それならば一番乗りを目ざさんと、最後の歩みを始める。集結時刻は11時10分であった。

(C) 嵐

天候の世
常に変則的
内容を通し
その結果、

私なりの反

全体的に

第一は朝日

てから後の

るのは、交

ことに意義

味わえなか

からの開放

交通機関を

地理的に長

になってし

そうひどく

かわず、個

たようであ

我々の行

多くの問題

を持った朝

結果として

守る補強材

ろう。次に

場合は処置

るほどの石

は十分あつ

天候のせいであると言ってしまうとそれまでだが、今回の夏合宿は非常に変則的なものになってしまった。しかしながら、その変化に富んだ内容を通して我々は多くの貴重な体験を得た。

その結果、残された多くの疑問点は十分検討する余地があるが、一応私なりの反省を書いてみる。

全体的に合宿の経過を辿ってみると、大きく二つに分かれる。

第一は朝日連山における山岳地帯の行動であり、第二は交通機関を使ってからの平地におけるワンダリングである。そこで、大きな問題となるのは、交通機関を使ったため地域が全く分かれてしまい、歩き通すことに意義のある合宿が統一性を欠いたものになり、総合的な充実感を味わえなかった事である。又、山岳地帯における緊張感と平地へおりてからの開放感が、いっそうそれを強めたと言えるだろう。

交通機関をまる一日使ったことは、大きな問題だと思うが、あの場合、地理的に長い合宿になると後半はどうしても気が抜けた随性的なムードになってしまうのだが、今度の場合はいろいろな条件も加味されていっそうひどく感じられた。平地へ下りてからの行動時間は短かったにもかかわらず、個人個人がバラバラになってしまい、全体としての統一を欠いたようであり、それがミーティングの需囲気に現われたりした。

我々の行動は悪天候により大きく防げられたが、それに対する処置に多くの問題を残した。まずテントである。アルプスに匹敵する気象条件を持った朝日連峰に8テンを持っていったのは、明らかに失策だった。結果として、ポールを二本も折られるはじめな事となったが、ポールを守る補強材料だとか強風時のテントの建て方など、今後研究すべきである。次に石油の量にも誤算があった。結果的にみると、今度の長雨の場合は処置なしだったが、合宿を予定通り遂行させる為には、十分過ぎるほどの石油を持っていった方がよいと思う。食糧は、軽量化した割には十分あったようだが、蛋白質の不足が気になった。

28~30日の行動はB隊とパーティを統合したため、細かい事は書かないが、地域の特殊性に関する認識が不足していたようだ。特に朝日連山における沢の状態。急激に変化する水量は花崗岩の山肌によるものだが、今まで我々があまり重要視しなかった地質的な考察も必要であることが判明した。また山岳地帯に於いて、トランシーバーにより他のパーティとの発信が出来、大きな安心感がえられただけでもよかったと思う。

S. L 府 川 茂

最後まで雨に悩まされた合宿であった。しかし霧は始終明かなく、楽しく行なえたかが何よりもうれしい。行動は十分ではなかったが、全員が与えられた仕事を一生懸命やり、晴々とした気持ちで解散出来たように思われる。

しかし、他のパーティの下級生から不満が聞かれたのは残念であった。C隊は3年生が3人いたので、SLの仕事も少なくなったのであろうが、充分出来なかったような気がする。と言うのもSLを把握していないのではないかと疑問が生まれてきた。しかし3年生のチームは最高であった。無事に朝日岳を下山して合宿は終了した感があった。事故者もいなかったので「成功・成功」と平然して喜ぶ訳にはいかない。遭難寸前の下山は決して成功ではない。あの下山を我々は自慢しがちであるが、間違っているし、自信を持つてはいけない。

今度の合宿で多数の問題点が打ち出された。今年が転換期であったようだ。行動地、日数、メンバー編制など、来年在が難しい。自分達が行きたいところに行くのが理想的であるが、障害はある。しかし、障害は努力すれば乗り越えられるものであるが、その前に、メンバーが信頼し、手を握ることが先決であろう。

今でも、下山の時の団結強さを思い出される。

(メンバー
P.
S
医
食料
気記

写

○ コース

7/23

7/24

7/25

7/26

7/27

7/28

7/29

7/30

7/31

8/1

8/2

8/3

8/4